

I 期（一般）

受験
番号

氏
名

令和 7 年度

武蔵野大学 専攻科 言語聴覚士養成課程 入学試験問題 (9 月 22 日)

〔国語総合〕

【1】言語の進化について書かれた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

①オノマトペの音と意味のつながりは赤ちゃんでもわかる。それが赤ちゃんに、自分がこれから学んでいく母語について、大人が発する声にいかなる意味があるのか、その音にはどのような特徴があるのか、などのざっくりとした直感的な理解を与えてくれる。しかし、言語はオノマトペだけでできているわけではない。語彙の大半は、「音に意味のない普通のことば」である。しかも、ことばが単独でバラバラに存在しているわけではなく、互いに関係づけられた巨大なシステムになっている。言語習得の問題を大局的に考えてみると、子どもはオノマトペ以外の膨大な数のことばを覚え、さらにそれらとシステムの中の他のことばの関係を発見し、最終的には自分で巨大な意味のシステムを構築していかなければならない。子どもは、アイコン性（音と意味の類似性）の支援なしに、どのように膨大な量の記号の体系を覚えていくことができるのだろうか？

言語には身体性があるのか。あるいは必要なのか。言語学では伝統的に、ことばに身体とのつながりはなく、その必要もないという考えが主流だった。オノマトペはこの見解に反する。それどころかオノマトペの存在自体が、この見解への挑戦である。この事実に対し伝統的な言語学では、オノマトペは言語の周辺にあり、取るに足らない例外であるという見解を示している。

この考え方は初期（1990 年以前）の②人工知能（A I）研究でも共有されていた。この時代の A I では、人間の知識の実装をする際の単位は単純な概念を表す記号であり、その記号を組み合わせればどんなに複雑な概念も作り出すことができると想定していた。

しかし、ひとたび言語を「意味を運ぶ媒体」と考え、意味がどのように始まるのかという問題を考えると、人間が話す言語が身体から分離された抽象的な記号から始まっているという考えは直感的に受け入れがたい。人間がコミュニケーションの道具としてそれぞれの意志や感情を他者に伝え、コミュニティの合意を形成するために大切な言語に用いられる記号の体系は、身体を経て得られる感覚、知覚、運動、感情などの情報に由来する意味を持っているはずである。しかし同時にことばは、身体性から離れて独自の意味をも持ちえる。このような③言語の二面性は、どのような道筋をたどれば可能になるのだろうか？

この疑問は、認知科学において今なお未解決の難問とされている。

認知科学者のスティーブン・ハルナッドは、人間が機械に記号を与えて問題解決をさせようとした A I の記号アプローチを批判し、記号の意味を記号のみによって記述しつくすことは不可能であると指摘した。言語という記号体系が意味を持つためには、基本的な一群のことばの意味はどこかで感覚と接地（ground）していなければならない、というのが彼の論点である。彼はこの問題に具体的なイメージを与えるため、外国語を外国語の記号のみから学習する事態を例に挙げている（今井訳）。

あなたは中国語を学ぼうとするが、入手可能な情報源は中国語辞書（中国語を中国語で定義した辞書）しかないでしょう。するとあなたは永遠に意味のない記号列の定義の間をさまよい続け、何かの「意味」

には永遠にたどり着くことができないことになる。

まったく意味のわからない記号の意味を、他の、やはりまったく意味のわからない記号を使って理解することはできない。他方、中国語の語を母語の語を介して理解することは可能である。母語の語は「感覚に接地」しており、接地した語を通じて接地していない外国語の記号を理解することが可能なのである。

ハルナッドの提起した「記号接地問題」は、子どもが母語を学習する際に実際に起こる問題でもある。意味を知っていることばを一つも持たない子どもは、まったく意味のない記号を使って新たに記号を獲得することはできない。言語と感覚とのつながりをまったく知らない子どもが、辞書を用いて言語を学習することは不可能である。

一方で、④成人はおおよそ感覚に接地しているとは思えないような概念をも、あたかもそれが感覚と接地しているかのように言語的に表現することができる。実際、私たちの言語には目に見えない、物理的な実体を持たない抽象概念を表す語が多く含まれている。たとえば「愛」ということばを例に考えてみよう。「愛」という語が指し示す概念には、物理的な実体はない。「愛」ということばを知らない子どもは「愛」という感情を理解できないだろうか？

直観的に考えれば、子どもは少なくとも自分に向けられた「愛」については、「愛」という語を知らなくても理解できる。

今度は、機械が「愛」を理解できるかを考えてみよう。たとえば自然言語処理システムに、「愛」の定義をことばで与えたら（たとえば、日本で出版されているすべての辞書の「愛」の語釈をすべてインプットするなど）、機械は「愛」の意味を理解できるだろうか？

ところで、これまで「身体的」ということばを頻繁に使ってきたが、そもそも「身体的」とはどういうことだろうか？ 実はこれは言語とは何かという問題を考える上で本質的な問題である。逆に考えると、オノマトペの意味は「身体的」なのだろうか？

ハルナッドは、機械が辞書の定義だけでことばの意味を「理解」しようとするのは、一度も地面に接地することなく、「記号から記号への漂流」を続けるメリーゴーランドに乗っているようなものと述べている。他方、永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態を回避するためにすべての記号が身体に直接つながっている必要はないとも言う。⑤最初の一群のことばが身体に接地していればよい。身体につながっていることばをあるボリュームで持っていれば、それらのことばを組み合わせることで、あるいはそれらのことばと対比させることで、直接の身体経験がなくても、身体に接地したものとして新たなことばを覚えていくことができるのである。

この考えは発達心理学の観点からしごく納得できるものであるが、言語習得のメカニズムを理解するために本当に大事なのは、これ以降の詳細である。ここからどのようにしたら身体から離れていけるのか。そのプロセスを詳細に理解したい。しかし、この点に関してのハルナッド自身の考察はここで終わってしまっているので数々の疑問が残されている。最初の身体に接地されたことばの一群とはどういうことばなのだろうか？ そこから言語はどのように身体から離れていくのだろうか？ この二つは言語習得、ひいては言語進化にとってもっとも大事な問いである。

身体性とは実は一筋縄でいかない概念なので、少しだけ概念の歴史的背景を紹介しつつ整理しておきたい。

すでに述べたように、AIで「身体性」という概念が注目されたのは、「記号主義」への反論としてであった。では「機械が身体性を持つ」ためにはどうしたらよいのだろうか？ 初期のAIには計算する「頭

脳」しかなかった。コンピュータは身体を持たないから、身体につながりようがない。だから頭脳に身体を持たせればよい。視覚情報はとても重要だから、機械に目となるカメラをつけ、ビジュアルな情報を取得させる。あるいは、センサーつきの手足を持たせ、感覚情報、とくに触覚情報を取得させる。これが、一部の AI の研究者たちが推しすすめたロボット研究である。

ただ、一つ困ったことがある。感情の問題だ。感情を表す表現は、コミュニケーションの中でとても重要である。感情を直接に表現することばは豊富である。オノマトペなら「ワクワク」「ドキドキ」「イライラ」「ムカムカ」「カーッ」、一般語では「うれしい」「悲しい」「楽しい」「怒る」など。また、感情を表すことばは、直接感情を表すいわゆる「感情語」に限らない。

桜の花びらが散っている様子を「ひらひら」や「はらはら」と表す。どちらも、よく耳にする表現である。しかし、「はらはら」にはどこか切ない、哀愁を帯びた感じがその意味に含まれ、「ひらひら」にはそれがない。多くの人は「さらさら」「すべすべ」「もふもふ」はこちよい手触りと感じ、「ざらざら」「べたべた」には嫌な印象を持つ。この「感情価」はことばの意味の重要な一部である。

筆者（今井）は、たくさんの^⑥触覚のオノマトペを辞書から集め、大学生にそれぞれのことばを硬さ、凸凹感、摩擦、弾力、粘性（粘り気）、湿り気、好感度という七つの軸で評価してもらい、主成分分析という統計手法を用いて、七つの軸が相互にどう関係しているかを見てみた。すると、（ ① ）は他の六つの評価軸と独立で、もっとも重みが大きい軸として現れた。つまり、（ ① ）は、触覚を表現することばの意味を理解する上で、単に付加的な情報というよりは、意味にとって欠かせない情報であることがわかったのだ。

ことばの意味、とくに一部のオノマトペの意味においては、「感情価」が非常に大きな比重を占めることを心にとどめておこう。

『言語の本質 ことばはどう生まれ、どう進化したか』今井むつみ 中公新書 2023 年より抜粋・一部改変

問 1 傍線部①「オノマトペ」の特徴を、5 文字で抜き出さない。

問 2 傍線部②「人工知能(AI)研究」において「言語」と同義で用いられている語を、文中から 2 文字で抜き出さない。

問 3 傍線部③「言語の二面性」について、文中のことばを使って、70 字程度で説明しなさい。

問 4 傍線部④「成人はおよそ感覚に接地しているとは思えないような概念をも、あたかもそれが感覚に接地しているかのように言語的に表現することができる」のはなぜか、文中のことばを用いて 120 字程度で説明しなさい。

問 5 傍線部⑤「最初の一群のことば」として文中で取り上げていることばを、5 文字で抜き出さない。

問 6 傍線部⑥「触覚のオノマトペ」を一つ取り上げて、その語を含む例文を 30 字以内で作りなさい。

問 7 （ ① ）に入る語は何か、7 つの軸の中から一つ選び、書きなさい。

【2】次の故事成語の意味を、a) から d) の中から選びなさい。

1. 画竜点睛

- a) 物事を完成させる最後の仕上げ
- b) 規律のないこと
- c) 小さい力でも根気よく長期間努力すれば、成功するということ
- d) 一つの行動で二つの利益を得ること

2. 塞翁が馬

- a) 他よりもたいへん優れていること
- b) 事態が差しせまっていて、時間にゆとりがないこと
- c) 人の運・不運は予想ができないこと
- d) 狭い世界しか知らない人のこと

3. 呉越同舟

- a) 二者がお互いに争っているすきに、第三者がもうけや利益を横取りすること
- b) 仲の悪い者同士が同じところに居合わせること
- c) 方法がまちがっているので、目的が達成できないこと
- d) 疑われるような場所や状況を避けるべきであるという教え

4. 守株

- a) 古い習慣にとらわれてまったく進歩のないこと
- b) 団体や集団のリーダーになること
- c) 他人から借りたものを傷をつけずに返すこと
- d) 自然の美しさを愛で、守ろうとする心

5. 蛍雪の功

- a) 一度戦いに敗れた者が再び勢いを盛り返して攻め寄せてくること
- b) どうしてよいか迷い、わからなくなること
- c) 一度起きたことは元には戻らない
- d) 苦学しながら勉学に励み、成功すること

【3】（ ）に漢字を書き、四字熟語を完成させなさい。

1. 再（ ）再（ ）
2. 天（ ）地（ ）
3. （ ）息（ ）息
4. 森（ ）万（ ）
5. （ ）唐（ ）稽

【4】次の下線部のカタカナを漢字で書きなさい。

1. 刀身が銀色のコウキを放つ
2. 目標の実現にエイイ努力する
3. ダムがケツカイする危険がある
4. 見えない糸をタグる
5. トウトい体験になる

【5】次の語の対義語を書きなさい。

1. 祝意 ⇒ （ ）
2. 敏感 ⇒ （ ）
3. 絶対 ⇒ （ ）
4. 傲慢 ⇒ （ ）
5. 混沌 ⇒ （ ）